

寧波舟山港が2位浮上

■世界上位港、1～3月期のコンテナ

世界のコンテナ取扱量上位3港の今年1～3月累計実績が出揃った。1位の上海港は前年同期比6.8%増の1410万6000TEUとなった。中国の寧波舟山港は14.7%増の1155万1700TEUと好調に推移し、シンガポール港を抜いて世界2位に浮上した。一方で、シンガポール港も6.3%増の1121万700TEUとなり、堅調に推移している。いずれも1～3月期実績として過去最高となっている。

上海国際港務集団(SIPG)とシンガポール海事港湾庁(MPA)、中国浙江省が公表した1～3月期のコン

テナ取扱量実績を本紙がまとめた。米国の関税政策や、中東情勢の悪化に伴う地政学リスクの高まりといった不透明要因はあるものの、世界のコンテナ荷動き量は堅調に成長している。こうした中、アジアの主要港である上海港と寧波舟山港、シンガポール港のコンテナ取扱量も着実に伸ばしている。

1位の上海港は、1月が前年同月比1.3%増の506万3000TEUとなり、単月記録として過去最高を更新した。単月500万TEUを上回るのも、2025年1月、8月に続き3回目となった。ローカル貨物に加え、トランシッ

プ貨物も堅調に推移した。2月も11.5%増の435万1000TEUとなり、2月実績として最高値となった。3月は8.8%増の469万2000TEUだった。

2位に浮上した寧波舟山港は、1月が11.1%増の428万2100TEU、2月が31.8%増の370万5000TEUとなり、ともに2ケタ増と好調だった。3月も4.6%増の356万4600TEUと伸びた。

3位となったシンガポール港は、1月が11.3%増の389万2400TEUと増加。2月は3.2%増の342万1100TEU、3月は4.3%増の389万7300TEUといずれも増えた。